

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	高齢者グループホーム 福福亭	評価実施年月日	平成21年5月29日
評価実施構成員氏名	ホ ー ム 長 管理者・計画作成担当 介 護 主 任 介 護 福 祉 士 介 護 福 祉 士	八 幡 小 野 寺 常 本 工 藤 佐 野	
記録者氏名	小野寺	記録年月日	平成21年6月9日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者主体: 利用者の意思が尊重され、その意思に基づいて生活できるよう支援。 笑いのある生活: いつも楽しく笑いの絶えない生活をサポート。 はりあいをもって: なにか一つでも張り合いをもって生活できるよう支援。 ホームから外へ: ホーム内に閉じこもりがちにならないよう、積極的に屋外活動などができるようなサポート。以上の4項目を基に住み慣れた地域での生活を支援している。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を共有し、その実現のため日頃から些細な場面でも話し合いを行い、理念の共通理解に努めている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	利用者家族には入居前やその都度、地域住民(町内会等)に対しては運営推進会議や町内会活動への参加を通して理解が得られるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	ごく普通に「お隣さん」的な付き合いができており、頂き物をすることもある。 夏場はホームの庭に咲いている花などを見に立ち寄って世間話や花の育て方を教えてくれることもある。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会へ加入しており、行事などにも参加するよう努めている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者の経験を活かし、地域の民生委員や町内会に対して、高齢者や障害者に関する制度など分からないことがあればいつでも説明・相談を受けると話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部では分からない、気付かない部分の指摘などを真摯に受け止め、より良いサービスの提供者となれるよう、サービスや体制の改善や向上に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において運営状況などを報告し、サービス提供等処遇についても家族等から意見を拝聴し、改善、向上に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	留萌市主催の会議(ケアマネジャー連絡会議)に参加、ホームの情報発信と他のサービス事業所からの情報収集、留萌市の担当部課との情報交換から、サービスの向上に活かしている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修や留萌市地域包括支援センターの社会福祉士等から情報を収集、該当者がいる場合に必要な支援が行える体制となっている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	留萌市からの情報提供や国・道のHPなどからも情報を得ている。また、事業所内外で虐待がないよう、入居者の言動や身体状況などに注意して観察している。しかし、あらためて虐待防止のため会議などは開催しておらず、月1回開催している事業所内の会議において入居者の処遇について、適切にサービス提供がなされるよう検討するにとどまっている。なお、開設からこれまで事業所内においての虐待の事実は無いと認識している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時に十分説明を行っている。また、利用開始後においても利用者や家族の疑問について理解を得られるよう説明等を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に入居者からの不満などへの対応を行っている。また、事業所内部で解決できない不満などについては家族にも協力を得て対応している。 入居者からの不満等に関して、会議等において報告することで職員全体での共通理解・認識が図られるよう努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	入居者の健康状態についてはその都度電話等により連絡している。また、金銭管理については毎月の利用料金請求時に使用の明細を送付している。職員の異動等については個人情報保護の範囲内の情報提供としている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族へ運営推進会議への参加を促し、不満や苦情を公にできるよう努めている。また、会議などでは言いづらい場合などでも、管理者や職員に対して苦情を申し立てることができるような関係構築に努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員から運営に関する提案がしやすい環境となるよう努めている。また、提案があった場合など、会議において検討し反映される体制となっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	様々な状況に対応できるよう勤務調整が即座に行える体制となっている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が離職する場合、その職員と入居者との関係性を考慮し、離職が入居者のダメージにならないよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	在職年数や経験・能力に合わせて外部研修へ参加する機会を設けている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の事業所の交流会などがある場合など、積極的に参加し、交流を深めるよう推奨している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	定期的に職員の親睦会を開催し、ストレスが軽減されるよう取り組んでいる。また、日常的に悩みなどの相談ができるよう、関係の構築に努めている。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	能力や実績により昇給する体制であり、これまでもその実績がある。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用前に本人と直接面談しニーズの把握や状態観察等を行い、入居時に万全の体制で受け入れができるよう努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用前に家族のニーズ把握を十分に行い、入居に際して不安等がないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談受付後の状況把握等により他のサービス利用が適当と思われる場合は、その旨を家族及び担当ケアマネジャーに伝えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人も見学に来てもらうなどの対応を行い、「これなら大丈夫」と思い納得してから利用してもらえるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	特段努めて関係を築いているわけではないが、日々を一緒に過ごす家族のような雰囲気になっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会などで来所した際には気軽に世間話をするなど、良好な関係となっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	その時々に応じた対応を行い、家族関係の維持向上に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人が面会に来る際など、以降も良好な関係が継続されるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者間の関係が良好に保たれるよう努めている。特に孤立しがちな方には注意して対応を行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	街で会ったときなどにも、困りごと等あれば気軽に相談していただくよう話している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人の希望に沿った生活となるよう努めて支援を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前はもちろん、入居後も本人や家族から話をうかがい、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人個々の記録用紙に一日の生活状況を記入し、現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人並びに家族等、職員などからも話を聞き、必要な事が反映されるプランとなるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて適宜見直し、変更行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録(1DAYケア記録)に記入し、職員間の情報共有などケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	元々家族の宿泊施設はないが、市外から家族が来る際など、入居者本人の居室で家族に宿泊してもらえるよう対応行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	所轄の交番や民生委員への可能な限りでの情報提供を行い万一の場合に備えている。また、防災訓練の際は消防の協力の下に訓練を行っている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ホーム退所により在宅復帰する際など、他のケアマネージャー等と協力して支援行っている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	これまで該当ケースはなく、実績なし。しかし、今後必要に応じて協働可能。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	元々かかりつけ医がいる場合はそちらでの受診としている。かかりつけ医がいない場合は協力医療機関等の適切な医療機関での受診ができるよう支援を行っている。		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	協力医療機関及び近隣の専門病院等との連携の下、適切な治療が受けられるよう支援している。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	協力医療機関及び近隣の専門病院等の看護士の協力により支援を行っている。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	協力医療機関及び近隣の専門病院等の協力により、入退院の調整や入院中の情報交換を行い、入院中の生活や早期退院に向けての支援を行っている。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	利用相談時や入居前(契約時等)などに、重度及び終末期について家族等へ説明を行っている。また、その時々状況によっても説明を行い、理解を得ている。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	協力医療機関の協力により対応の検討及び準備を行っている。これまでの実績はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族及び退所後のサービス関係者への情報提供を行い、影響が最小限となるよう支援を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシー等個人情報の取り扱いには十分注意を払い、個人として尊重されるよう努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>押し付けにならないケアに努め、本人の意思が最大限尊重されるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>朝寝坊、夜更かし、ご飯食べたくない、お風呂に入らないなど、その時の気分で生活できるようにしている。(上記が恒常化し、不規則で怠惰な生活にならないよう注意して支援)</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理容美容室への送迎を行い、希望に沿うよう支援している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者が得意料理を披露する機会を設けている。食後も片付け可能な入居者との協働により行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	黒飴が好きな入居者のために飴を常備したり、喫煙する入居者のために喫煙場所を確保するなどの支援を行っている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄間隔の把握により適切なコントロールが行われるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の曜日は月水金と指定しているが、気分が入浴希望に対応する準備はしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠障害がある場合などは医師に相談するなど、適切な睡眠・休息となるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	米研ぎや皮むきなど食事の下ごしらえや調理、配下膳や掃除、洗濯物たたみなど、能力を活用してもらい、毎日役割をもって生活できるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理能力に応じて所持または使用できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は散歩に出かけるなど、希望に沿った外出支援を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブ等外出支援行っている。今年度は海遊びや果物狩りを検討している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要に応じて自室で電話ができるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会の場合は入居者の居室で、他の入居者に気兼ねなく面会ができるよう支援行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。また、今年度は未開催だが、身体拘束について勉強等行う『身体拘束廃止委員会』を設置、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室への施錠はしていない。玄関については入居者保護の観点から日中でも施錠している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者の状況把握に努め、事故無く安全に生活できるよう支援している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて適切に管理行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日常的にホーム長及び管理者から事故等について注意喚起や予防方法、技術指導を行い、事故防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が応急手当及び初期対応が行えるが、万全ではなく、訓練についても定期的には行っていない。今後、内外研修の機会を設け、対応に努めたい。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に協力が得られるよう町内会に打診しているが、具体的な協力体制の確立には至っていない。当面はホームの近くに住んでいる職員の初期対応協力や緊急連絡網を活用しての職員対応が中心となる。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用説明の際に、入居後の考えうるリスクについて家族に説明を行い、予防や対応について検討行ったことを伝え承得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日最低3回以上のバイタルチェックと状態観察等により、体調不良等の変化に迅速に対応できるよう努めている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方時にもらう『お薬情報シート』(処方内容や用法用量を記したもの)等により服薬薬剤の効果等について把握するよう努めている。処方の変更等があった場合など、服薬による体調変化等に留意し服薬支援を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便を促すお茶の使用や食物繊維の摂取量等に留意し、運動等と併せて便秘の予防を支援している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床や就寝、食後に歯(義歯)磨きなど口腔衛生の支援を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事及び水分摂取量を記録し、不足や偏りがないよう支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗いうがい、食器の殺菌等、感染症予防について実行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	まな板等調理器具の殺菌除菌を行い、食材についても新鮮なものを使用し食中毒の防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ホームの道路に面している側に庭(花壇や菜園)を整備し、和める雰囲気作りに努めている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ホール等、季節感がある飾りつけ等行い楽しくゆったりとすごせる場所となるよう努めている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	食堂兼ホールに食卓テーブルとは別にテーブルを設置し、庭を眺めたりできるスペースを確保している。		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居時にこれまで使っていた家具の持ち込みを推奨しており、大半の入居者はタンスやテーブル、鏡台等持ち込んで使用している。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	24時間自動換気を行い、必要に応じて窓を開ける等の換気を行っている。温度についてはエアコンやストーブの使用により一年を通して一定の室温となるよう配慮を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている</p> <p>少しずつ増えている</p> <p>あまり増えていない</p> <p>全くいない</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が</p> <p>職員の2/3くらいが</p> <p>職員の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が</p> <p>利用者の2/3くらいが</p> <p>利用者の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が</p> <p>家族等の2/3くらいが</p> <p>家族等の1/3くらいが</p> <p>ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・毎日笑う機会があるよう努めている。
- ・入居者と職員が一つの輪になるよう努めている。
- ・入居者がそれぞれ役割をもって生活できるよう支援している。